

## 川崎地区への空襲（館山市那古）

加藤 誠 （館山市那古在住）

1945（昭和 20）年 5 月 19 日の午前中、雨が降っていた館山市那古の川崎地区に、爆弾の嵐は突然やってきた。当時和田浦（南房総市）の安房農学校の生徒だった私は登校しており、空襲警報のため裏の松林に避難していた。正午前、館山方面に爆発音がしたので、どこかやられたなと思っていた。そのうち、先生から家に帰るよう指示された。雨の中を急いで帰り、家の近くまで来ると、視界が開けてパッと明るくなった感じにはビックリした。それというのも、各々の家はマキの垣根がぎっしり植っていたのに、根元から裂けて倒され、家屋の多くは焼失したり、爆風で倒壊されていたからである。

私の家では、母が即死だった。祖母と 22 歳の姉も負傷し、一旦船形の西行寺に收容されたが、その夜戸板に乗せられて遺体で帰ってきた。父は負傷し、病院に半年ほど入院して、終戦後に家に戻ってきた。一家の働き手を一挙に 3 人亡くし、父も退院後仕事ができる状況ではなかったので、残った家族 8 人を養うために、私は学校をやめて農家の仕事を一手に引き受けてやってきた。友だちがみな学校に行っているのに、なんで自分だけが、とつらかった。

後に、川崎町内会が『川崎での空襲記録』を発行した時、私も証言をしている。その被害は、死者 27 名（2 才から 80 才まで）、負傷者 10 名、家屋全壊 9 戸全半壊 18 戸と記録されている。朝早くから空襲警報は出ていたが、ずっと避難していた人が、何事もないということで安心したのか、昼食の仕度をするため庭や畑にでてきたところを直撃されたようだ。建前をしていた大工さんも即死だったという。相当ものすごい爆風だったのか、近所の 11 歳の子供が身に付けていた着物の端が 50m は離れている八雲神社の境内の杉の木の先端にひっかかっているのが、その後発見されたが、その子供はとうとう最後まで行方不明のままだった。

米軍資料報告では、同日 10 時 51 分から 11 時 58 分まで、B29・309 機によって第一目標を立川陸軍航空工廠・立川飛行機会社工場・浜松市に設定した「作戦任務 178 号」が実施されている。レーダー爆撃照準で 272 機が任務を遂行したが、14 機が臨機目標に投弾したと記載がある。臨機目標とは、機体の不調、飛行条件、搭乗員の過失などで指示された目標を攻撃できない場合、臨機に目標を定めて投弾するよう命ぜられていた。この日、天候不良のため臨機目標に変更した 14 機が、神奈川・千葉・山梨・静岡の各地に投弾した。

さらに米国戦略爆撃調査団報告書「第 20 航空軍日本本土爆撃詳報」によると、千葉県館山市にある軍事施設を爆撃設定した各種目標（軍需工場など）に「目標規定 64-2421-010」がある。館山市八幡にあった池貝鉄工所館山工場と思われる。この軍需工場は、第 314 航空団の一機が臨機目標に変更した際に、優先順位 3 番目の目標となっていた。そして爆撃は実施され、「5 月 19 日、攻撃時刻 155（日本時間 10 時 55 分）、爆弾投下高度 2 万 4 千フィート（7,320m）、高性能爆弾（AN-M64・500 ポンド G.P. = 250kg 爆弾）27 発（7 トン）」と報告されている。

毎日新聞は、「南方基地の B29 が約 90 機、19 日午前関東及び東海両地区に来襲…わが方の被害は極めて軽微で殊に重要施設にはほとんど被害はなかった。千葉発 19 日午前 11 時頃房総南部に侵入した敵大型機一機は館山市付近に小型爆弾数発を投下して南方に脱去」と報じたのみであった。しかし館山市だけではなく、安房地域でも最も大きな戦災だった。

⇒【証言の会（録）P. 36 参照】